誌上再録

RKK—TV
〝県民のひろば〟
〈3月31日13.15～13.30〉

県の台所

昭和三十七年度は、予算総額二百五十四億二千八百十一万七千円でスタートした。各種事業はますます積極化され、今年度は、文字どおり〝県政飛躍の年〟となるだろう。
♣この対談は、新予算スタートの前日三月三十一日に、RKKテレビ「県民のひろば」で放送したもの。

話す人／熊本県副知事　沢田　一精氏（右）
きく人／熊本放送編成局長　吉村　一郎氏（左）

吉村　今日は県の台所、つまり県の予算について、沢田さんにいろいろとおききしたいと思います。

まず、来年の才入才出、県民のためにお金をどう使つていくらか、そのアウトラインを簡単にご説明願いましようか。

沢田　ではこの丸いグラフでご説明しましよう。予算総額は二百五十四億二千八百万円。だいぶん大型の予算になりましたが……熊本県は昭和三十一年度から三十五年度までは財政再建団体でした。これを三十六年度から脱却しまして、一本だちになつたわけです。

ただ、このグラフでもわかりますように「地方交付税」「国庫支出金」「地方譲与税」この三つは国の財政措置に依存をしているんです。

吉村　全体の約[illegible]位ですね。

沢田　そうですね。ですから、県内から入つてくるお金は、県税その他をあわせましてだいたい[illegible]位ですね。

とにかく、県民の皆さんのご協力で財政再建団体をぬけ出して、一本だちの予算が組めるようになつたわけですが、そのうえ「財政基金」とか「災害基金」とか、将来不時の支出に備えて、六億～七億のお金をすでに貯金しているわけです。

吉村　なるほど。

沢田　そういう意味からみますと、熊本県の財政は非常に建全になつたと云えると思います。ただ先にも申しましたように、今後は自主的な財源の増加につとめなければならないと思います。

吉村　予算規模自体、去年にくらべて、五十億円位の増加だと聞いていますが……

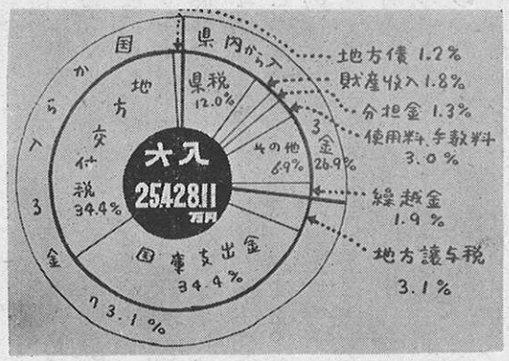
沢田　えゝ、だいたい二三％位の増加になつていますね。これは国の予算規模が二四～二五％ふえていますので、それにマッチしたふえ方を示しているわけですね。

吉村　他の都道府県の予算でも、こういう国庫支出金というのは多いわけですか。

沢田　それぞれの府県の特殊性はありますが、何と申しましても、本県の場合は県税の収入などがまだかなり少ないのでその分だけ国庫に依存する度合が強いと云えるんですね。

吉村　なるほど。これで才入の方はわかりました。では、このお金をどういう具合に使うか……いわゆる才出予算について、そのグラフでご説明を……。

沢田　この才出のグラフをみますと、一番大きいのは「教育費」予算の三六％ですね。その次が「産業経済費」、これは農業の果樹畜産をはじめとして、いろいろな産業を伸ばしていくために必要な経費。その次が「土木費」ですね。道路をつくつたり、港を整備したりする費用で

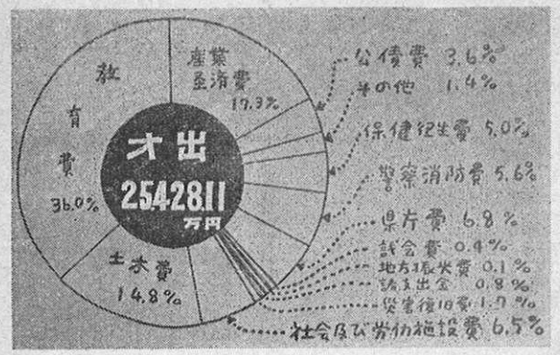


す。この三つをあわせると、だいたい四分の三位になりますね。

それから「公債費」いわゆる県が借金を返す費用、これもだんだん減つています。そういう意味では、非常に健全な財政の姿になりつゝあるということが云えると思います。

吉村　そうですね。ところで、そのグラフには書いてないですが「人件費」はどれ位になりますか。

沢田　これは教育費の殆んど全部が人件費ですね。これは学校の先生方の給料です。まあ何もかもうち込みで考えますと、総予算の約五〇％が人件費だとお考えになつていいかと思います。



三本の柱をたてた新予算

吉村　そうですか。わかりました。

それからですね、予算にはそれぞれの特色があると思うのですが、この予算の核心と申しますか、重点と申しますか、それはどういうことなんでしようか。

沢田　この新予算には次の三本の柱があるのです。

① 農業の近代化
② 県産業の工業化
③ 人づくり

一番目の「農業の近代化」といいますのは、本県産業の主体は現状においては農業ですから、農業の構造改善事業をおしすゝめるという国の方針に沿つて、特に農業のうちでも成長部門である果樹畜産という面に重点をおいて、県計画の線に沿つて、農業を新しい時代にあうように近代化していこう……まあひとくちに申しますと、他の産業にヒケをとらないような農業経営をうちたてるということがねらいなんです。

吉村　二番目の「工業化」ということはどうなんですか。

沢田　これはさつき才入のところで申しましたように、熊本県の産業が、いつまでも農業に依存していたんでは、県税の収入も伸びない。だから例えば有明海の砂鉄で鉄を造るように、いわゆる資源立地型の工場を大いに誘致しよう、たゞ、工場誘致のカケ声だけではだめですから、その先行条件になる道路や港湾の整備などに大いに意を用いていこう……これが二番目の問題ですね。

吉村　なるほど。

沢田　最後の「人づくり」ということですが、当面問題になつている高校生徒急増対策、それから職業訓練施設の充実、或いは、これからの農村をせおう、いわゆる農村の後継者を育てていくために、県の施設である経営伝習農場などを整備しよう、或いはまた、新しい問題では、産業開発青年隊のようなものも考えて、国土開発に必要な技術者を養成しよう……とこういうことをひつくるめて「人づくり」といつているわけで、これからおおいに力を入れていこうというわけです。

吉村　先ごろから話題になつている県民会館のことですが、多少は今年の予算の中に考えられているわけですか。

沢田　はい。具体的に一億四千万円の予算を計上しています。

これは、前から婦人会や青年団、母子会、あるいは社会福祉関係の諸団体、武道関係者などから、会館を建ててもらいたいという強いご要望があつたわけです。

吉村　なるほど。

沢田　それが、なかなか適当な場所もありませんし、それぞれ別個に建てていたんでは、資金もかさみますしね。何か名案はないかと考えましたら、昔の千徳の跡があんなかつこうで残されていますので、あれを活用する方法はないかと検討したわけです。そうして一応成案を得ましたので予算を計上したのです。

吉村　あゝ、そうですか。ではもうだいたいあそこというわけなんですか。

沢田　たゞまあ、議会の審議の過程によつて、あそこもひとつの候補地ではあるけれども、もつと良い場所がもしあるならば、そこも候補地として考えたらどうか、ということで、なお慎重に検討せよということになつたんです。

吉村　あゝ、そうですか。ところで話はかわりますが、沢田さんはブラジルにおいでになりましたね。

沢田　えゝ、昨年の春から中南米を巡つてきました。

吉村　今度の予算で、ブラジルに県の事務所を設けるとか、県の留学生を海外に派遣するとか……そういつた話はどうですか。

沢田　えゝ、新年度予算ではじゆて、ブラジルのサンパウロ市に県の事務所を設けたり、交換学生制度と申しますか、熊本県から海外に移住された方の子供さんで優秀な人々を内地へ招いて勉強していたゞく、また、こちらから向うへいく希望の学生を派遣する……こういうことを